

BrightEyes

瞳を輝かせて

輝

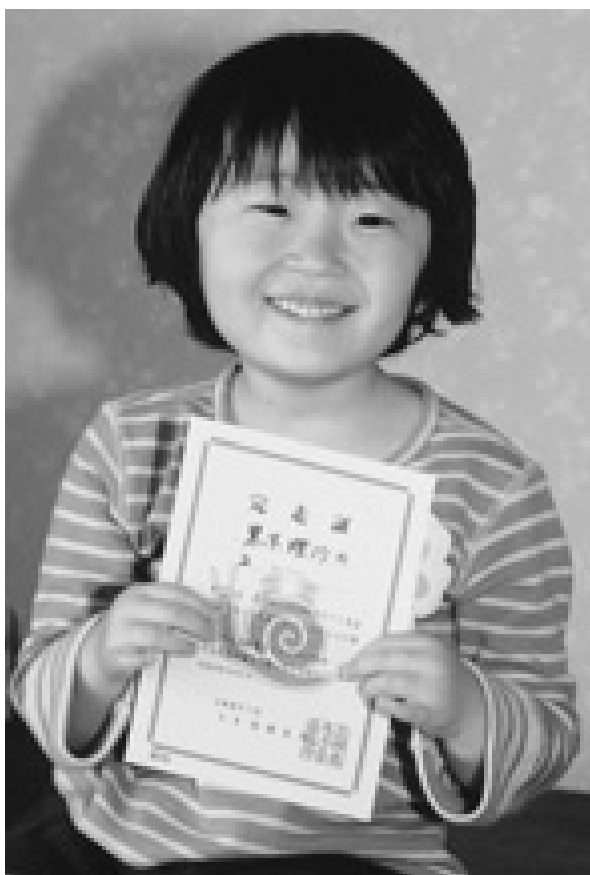
病気には負けない

第20回三好池桜マラソンに出場

黒木 理沙ちゃん (三好市)

プ ラダー・ウィリー症候群 (PWS) という病気を知っていますか。これは、約1万人から1万5,000人に1人の確立で発症する染色体異常による病気です。症状は年齢によって変化し、筋力低下、過食、肥満、精神発達遅延などさまざま。治療法は分かっています。今回はPWSを克服するため、リハビリを続け、三好池桜マラソンに出場した黒木理沙ちゃんを紹介します。

理沙ちゃんがリハビリを始めたのは、今から3年前。当時、2歳だった理沙ちゃんは、まだハイハイができませんでした。そんなとき、母・裕子さんは、脳性まひや染色体異常のある子どもにも効果的なりハビリ法があることを知りました。そして、理沙ちゃんにも効果があればと思



▶▶▶プロフィール

くろき・りさ 平成10年生まれの5歳。生まれつきの障害を克服するため、自宅でリハビリプログラムを続けている。アルプスの少女ハイジが大好き。平成15年4月6日、三好池桜マラソン2kmの部に出場し、見事完走する。

い、家族で話し合っこのリハビリ方法に取り組むことにしました。この方法は、運動面、生理機能面などから脳に対して働きかけていくもので、何種類ものリハビリプログラムを数多く繰り返さなければならぬもの。また家族だけでは対応できないため、多くの皆さんの協力が必要になります。「ボランティアの皆さんには、子どもを台に寝かせた状態で体を動かす簡単な体操であるパターンニングという運動の補助をお願いしました。その協力のおかげで毎日のリハビリを続けていくことができ、皆さんにはいくら感謝しても、したらないくらいです」とお母さん。

こうして、1日も欠かさずにリハビリを続けた結果、2歳8カ月ごろにはなんと歩けることができるようになりました。歩行のリハビリが始まったころ、黒木家には「家族で桜マラソンに参加する」という大きな目標ができました。その後、4歳5カ月ごろから走るリハビリを始めた理沙ちゃん。最初は100mほどが限界でしたが、努力を続け、4km近くも走れるようになりました。そして今春『ボランティアさんいつもありがとう』というメッセージを書いたタスキを掛け、目標の三好池桜マラソンに参加。家族で走り切りました。

「今はまだ自力ではできないことも、リハビリを続けることで、できるようになることもあります。結果だけではなく、やり通そうとする過程を大事にしていきたいです」とお母さん。

現在も休みなくリハビリを続けている理沙ちゃん。これからもくじけずに頑張ってくださいね。

※ボランティアに興味を持った人は、福祉センター内のボランティアセンター (☎34) 15888

☎(34) 5860)へお問い合わせください。



みつけたみよしの
はつらつさん

好奇心が健康の秘けつ

山田 恭介さん（三好丘）

「昔から特に健康法といえるようなことはしていませんが、食事には多少気を使っています」と話す山田さん。肉類は避け、魚や野菜を食べるようにしているそうです。

食事以外にも心掛けていることを尋ねると「心掛けているわけではないですが、わたしは好奇心が強いというか、新しいことにどんどん取り組みたくなるんです。デジカメを使ったり、電子メールを使って仲間とやりとりしたりして、食事や旅行に出掛けることもあります。この前は北海道に仲間と車で行ってきました」と生き生きと話します。

以前はグラウンドゴルフや気功法などの運動をしていたそうですが、最近はウォーキングや中央公民館の木彫り教室に通って彫刻を楽しんでいるとのこと。

これからもたくさんのことに挑戦して、心の若さを保っていただくさね。

▶▶▶プロフィール

やまだ・きょうすけ 大正11年生まれの80歳。趣味は彫刻やパソコンなど多彩。音楽はクラシックが好きでコンサートにも足を運ぶ。「いろいろとやりたいことが多すぎて時間が足りないです」と笑顔で話す。



みよしっ子
みよしっ子

北中学校

日本文化部

北中学校の日本文化部を紹介します。顧問の近藤真里子先生と部長の田所結さんに話を伺いました。

和室に入る時にも礼儀作法があります。このような、日常生活の中では体験する機会が少なくなってしまう日本古来の文化を体験しようと、昨年4月にスタートしたばかりの新しい部・日本文化部。2年目を迎えた今年は、昨年の経験を生かしてさらに活動の幅を広げていこうと、とても意欲的です。

「普段の活動では、基本的な礼儀作法、着付けの仕方などを学びます。昨年の文化祭では、自分たちで作った浴衣を展示し、2月に開かれた北中茶会では、茶道も披露しました。ほかの学校にはない部活なので、ぜひ新入生の皆さんに体験してほしいですね」と田所さん。「自分たちで活動内容を提案し、新しいことにチャレンジしたいです。次は自分たちのお茶わんを作ろうと考えています」と抱負を話します。近藤先生は「日本文化を愛し、茶会に出席して体験したことや、部活動を通じて学んだ礼儀作法などを、日常生活にも生かしてほしいですね」と指導に対する思いを語ってくれました。

